

令和4年度

新収蔵書画展

令和4年12月10日(土)～令和5年1月22日(日)

金沢市立玉川図書館 近世史料館



【右】岸井静斎画「加冠進鹿」(18.13-26) 【左上】鶴松図(090.1635-199)

【左下】中浜龍淵・藤田維正等酬和図(菊蘭図)(090.1386-377) 【背景】榊原拙処書(孝経第三十五)(090.1443-1①)

近世史料館では、広く加賀藩政時代の史料を収集・保存しており、収集した史料は整理と目録の編纂を経て随時公開している。本展示では、近年新たに収集した史料のうち、書画作品を展示・紹介する。

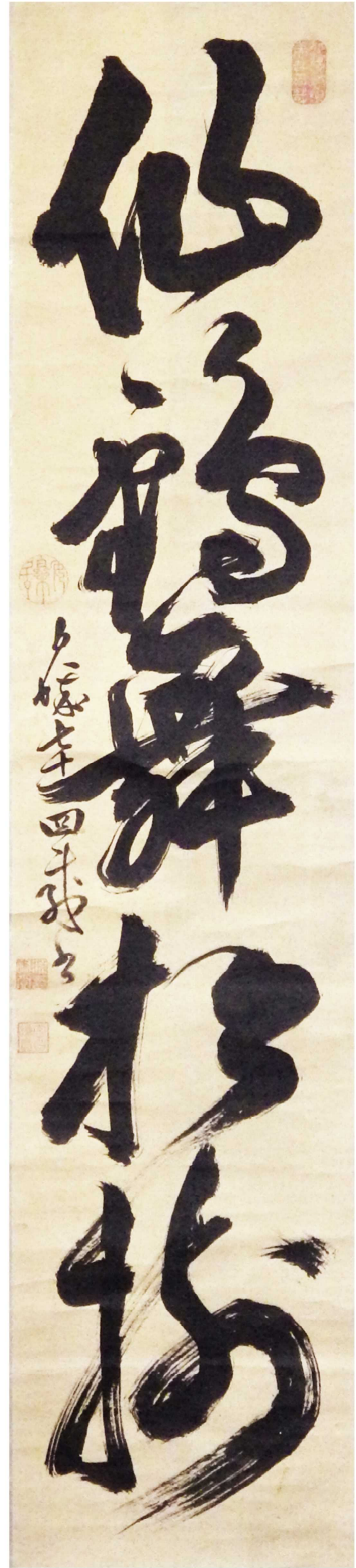
○樹草花図

(090-1386-384)



○新井白蛾書「仙鶴舞松樹」

(090-1553-1)



やすい せっこう
安井雪光 明治20年～昭和27年(1887～1952)

大正7年(1918)から昭和22年(1947)まで石川県立第一高等女学校の図画の教諭を勤めた。荒木十畝、荒木寛畝に師事し、花鳥画を得意とした。

あらい はくが
新井白蛾 正徳5年～寛政4年(1715～1792)

江戸中期の儒学者。加賀藩の藩校である明倫堂の創設にかかわり、初代学頭となった。明倫堂の扁額の文字も白蛾の揮毫である。

○玉井敬泉画（山里風景）

(090-1386-385)



○岸井静斎画（桃花下牛と子）

(18.13-25)



たま い けい せん
玉井敬泉 明治22年～昭和35年(1889～1960)

大正から昭和にかけて活躍。山田敬中、結城素明に師事する。昭和10年(1935)、『加能画人集成』を出版。白山の風景、植物などを扱った画題が多い。

きし い せい さい
岸井静斎 文政9年～明治26年(1826～1893)

江戸末期の加賀藩士。絵を好み、岸派の森西園に学ぶ。後年には、岸派の祖である岸駒や、南画派の池大雅の画風を慕って絵を描いた。

○鶴松図 (090-1635-199) 【表紙左上】

かのうぼくせん
狩野墨川 生没年不詳(18世紀～19世紀)

江戸時代後期から末期にかけて活躍した狩野派の画家。父は狩野派の画家の狩野友益である。

○榊原拙処書(孝経第三十五) (090-1443-1 ①) 【表紙背景】

さかきばらせつしよ
榊原拙処 寛政3年～明治8年(1791～1875)

江戸後期の加賀藩士。名は守典。学問を好み、漢詩を作り、南宗画に親しんで梅図や竹図を得意とした。孝経全文を一紙に書くことを日課としていたという。

○中浜龍淵・藤田維正等酬和図(菊蘭図) (090-1386-377) 【表紙左下】

なかはまりゅうえん
中浜龍淵 文政10年～明治30年(1827～1897)

金沢で医家の中浜家に生まれる。狩野派の画家でもあった父鶴汀に画を学ぶが、のちに京都に出て南画派の山本梅逸に学ぶ。龍淵の他に長楽斎、孤峰といった号を用いた。

ふじた これまさ
藤田維正 文政8年～明治25年(1825～1892)

江戸末期の加賀藩儒者。中学、師範学校で教鞭をとった。その傍らで南宗文人画をよくし、容斎、咲翁、笑翁、蘿月窟主人、野航斎といった号を用いた。

○岸井静斎画「加冠進鹿」(18.13-26) 【表紙右】

きし い せい さい
岸井静斎 前頁参照

○加藤里路和歌短冊 (090-1457-21 ②)

○加藤里路和歌短冊「愚詠」(090-1457-22 ②⑥⑪⑮)

かとうさとみち
加藤里路 天保11年～明治44年(1840～1911)

江戸末期の加賀藩士で、白山比咩神社や気多大社の宮司を務めた。歌道を狩谷竹軒に学び、また国学にもよく通じていた。

○淡雲帖(書画帳) (090-1720-32)

こまつ さきゅう
小松砂丘 明治29年～昭和50年(1896～1975)

木地職人として挽物業に従事するかたわら、俳句・俳画をよくした。金沢・香林坊に「明暗を香林坊の柳かな」の句碑が建っている。

○小川直子書 (090-1386-361 ①)

おがわなおこ
小川直子 天保11年～大正8年(1840～1919)

金沢女学校、石川県女子師範学校、青森県女子師範学校などで教鞭をとった。明治26年(1893)から同36年(1903)には明治天皇の皇女らの御用掛を務めた。